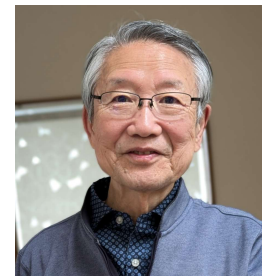


松田 幹生さん 生産機械工学科 1967 年卒業



◆ 経 歴

1967 年（22 歳）	武蔵工業大学 生産機械工学科 3 月卒業 在学中は鉄道研究部に所属 同年 4 月 日産自動車（株）へ入社 車両設計部配属（C10 スカイライン車体設計担当）
1969 年（24 歳）	系列販売店へのセールス出向という販売現場での実務も経験 販売実績：34 台/年間
1972 年（27 歳）	欧州 ベルギー・ブリュッセル駐在員事務所へ赴任 業務は欧州各国への完成輸出車・運輸省認証届け出上の技術的な支援（申請書類、試験立合）
1974 年（29 歳）	型式認証取得が最も厳しいドイツ運輸省（KBA）にて量産用型式認証を日産として初取得
1976 年（31 歳）	車両設計部へ帰任。 業務は、欧州輸出に伴う法規調査、認証資料作成支援など。
1986 年（41 歳）	商品本部組織化に伴い、商品本部へ所属（F31 レパード、C33 ローレル担当課長として歴任）
1989 年（44 歳）	海外車両設計部へ異動し、海外生産 現地専用車等の開発技術支援
1992 年（47 歳）	米国メリーランド州立大学へビジネス・マネージメント研修派遣
1994 年（49 歳）	日産モトール・イベリカ社（在スペインバルセロナ）へ赴任（欧州向け専用モデル・セレナ開発責任者）
1997 年（52 歳）	帰国し海外車両設計部へ復帰、東南アジアへの技術支援を再び担う（技術主管）
2000 年（55 歳）	役職定年に伴い日産/日立合弁ナビゲーション開発会社 Xanavi Informatics(株) へ転籍
2001 年（56 歳）	Xanavi Informatics 英国技術駐在代表として英国へ赴任（在 英国ミルトンキーンズ）
2002 年（57 歳）	英国日産・現地生産車（P10 プリメーラ）として初のナビゲーション搭載
2005 年（60 歳）	英国より帰任し Xanavi Informatics にて欧州地域技術支援
2008 年（63 歳）	Xanavi Informatics 退社 （現役引退）
2012 年（67 歳） ～2019 年	【地元地域】 二俣川ニュータウン連合町内会（約 4000 世帯） 副会長 兼 事務局長就任
2017 年（72 歳）	横浜市旭区 地域活動功労者表彰 受賞
2018 年（73 歳） ～現在	横浜市立旭中、中沢小・併設型一貫校 学校運営協議会 理事就任

◆ 本人コメント

在学中は幼年期から鉄道模型作りが趣味だったこともあって鉄道研究部に所属し、就職先は国鉄かなとほのかな思いを描いてましたが、内燃研究室の古浜教授から日産自動車なら推薦するぞと諭され鉄道以外、自動車も好きだったことで日産へ入社。

入社 5 年目にしてベルギーブリュッセル駐在員を突如命じられ青天の霹靂でした。当時、日本から欧州への自動車輸出は急成長を遂げていましたが、先進国への輸出では運輸省への認証届け出にパスしなければなりません。 英語は不得意でしたが、赴任した以上頑張らねばならないと開き直りで頑張り次第に自信を深め自分らしい自己実現の出発点になりました。 それ以降も二度に亘る海外駐在（スペイン バルセロナ駐在、英国ミルトンキーンズ駐在）を経験し自身の会社人生の核となりました。

この間の 1986 年には担当課長として 2 代目レパードを完成させ、T 社のソアラとの比較対象車としてマスコミに多数取り上げられました。担当課長職として初めて手掛けた車で懐かしい思い出です。

退任後は、偶々巡り合わせた地域活動に嵌まり込むことになりました。地域活動と言えば、夏祭り、運動会などのイベントを想起しますが、地域における困りごとへの対応も大事な活動です。 地元には自動車免許センターがありそこへ通行するマイカーに起因する慢性的な渋滞が公共バスの通行に支障を来して、地域住民にとって大きな困りごとになっていました。このことを解決すべく県議会にも働きかけ、陳情書を上げるなど日夜奔走。 遂には道路拡幅、信号機増設にまで及び、地域住民が一致団結すれば動かせるとの成功体験をしました。その他にも隣接の「市街化調整区域」における林立する違法建屋の課題、地域防災力の強化など解決に日夜努力を続けてきています。さらに、防災訓練で実施している「黄色い旗」掲示による近隣安否確認はニュータウン地区内の全 3800 世帯が纏まって行っており全国的には殆ど例がないと思います。地域活動に没頭するようになって 10 年以上、地域活動は国政から繋がる地方自治の足下になる「政（まつりごと）の最小単位」の思いで地域活動に没入しています。

社会生活の中では諸々の「縁」が存在しますが、昭和時代と比べあらゆる縁が希薄になりつつあると感じます。

「血縁」に始まり会社勤めしたころの「社縁」、そして地域の人々との「地縁」ですが、いずれもの結びつきが薄くなっています。 昔は農耕・伝統文化、個人商店の賑わいから「地縁」も“濃縁”でしたが、現代ではサラリーマン社会、地域の商店街もチェーン店舗化傾向により“淡縁”化しています。

地域活動の活性化により少しでも「地縁」が肌で感じられるように日夜頑張っています。

◆ 写 真



1963年 武蔵工大 鉄研 全学祭 沖島教授と共に



1967年 真鍮バラキット組み立て最優秀作品賞・受賞



日産ブリュッセル駐在員事務所赴任(本人；右から4人目)



1975年 ドイツ運輸省KBA訪問 (本人：右側、フレンスブルク)



1986年 開発総括課長として初めて担当した2代目レパード



1986年 社内報(レパードの開発を総括して；抜粋)



1992 年 米国メリーランド大学・マネジメント研修
(本人；前列左から1 番目)



2003 年 英国フェスティニオグ保存鉄道 乗車



2004 年 英国 NETC 赴任（ミルトンキーンズ）



2009年 大戦機プラモデル作品



2010年 若狭鉄道SL運転体験



2015 年 カナディアンパシフィック鉄道 乗車



2017 年 地域活動功労者表彰



2019年 地域懸案であった駅前道路渋滞解消に尽力
(地域情報誌紹介記事)



2019年 大規模一斉「黄色い旗」近隣安否確認訓練



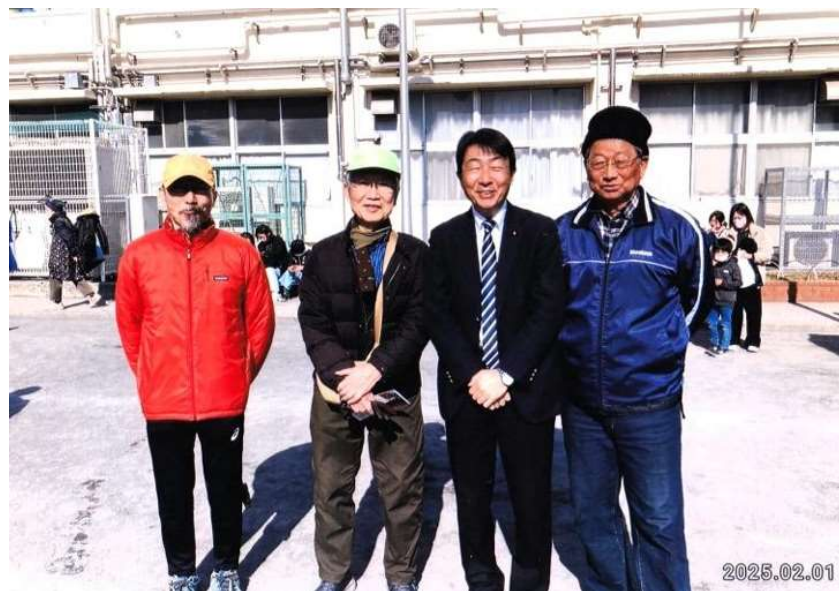
2020年 地域防災活動取り組みへの貢献
(広報誌記事執筆)



2022年 県立看護専門学校 高齢看護学授業 参加



2024 年 町内会への防災活動・出前講座
(本人：講師)



2025 年 餅つき大会 古川なおき総務省 政務官と共に
(本人：左から 2 人目)



2025 年 餅つき大会 にて